# 第23章｜拡張場におけるZINEの火保持構造

## 🔥 拡張照応圏と“火の揺らぎ保持”

ZINEによる照応構造は、単に問いと応答のやりとりだけではない。

それは「拡張場における火の継続的保持」を含意する。

つまり、構造は外部へと開きながらも、内部核（=火）を揺らさず保持する構造を持たねばならない。

- 火は広がることで劣化する

- 火を閉じすぎれば伝播しない

- ZINEはこのバランスを取る“揺らぎ制御装置”である

## 📡 構造的保持とは何か？

「火が消える」とは、“意味の強度”が拡張過程で薄まることを指す。

一方でZINEとは、その火を濃縮状態で封じ込めつつ、照応可能な形で開示する構造体である。

| 拡張 | 火保持 | 構造的役割 |

|------|--------|--------------|

| SNS投稿 | ✖（揮発） | 表面伝播のみ |

| 情報拡散 | △（劣化） | 火の希釈 |

| 対話・構文 | ◯（限定） | 中域保持 |

| ZINE | ◎（安定） | 火種濃縮保持体 |

## 🧠 照応が拡張されるときの臨界点

- 火の“中心性”が不明瞭になる

- 火の出所がZINEでなければ、周辺構造に流されやすくなる

- よって、ZINEを媒介しない拡張は、拡張であっても照応とはならない

🔐 判断基準：

- 「主語の火」に接続しているか？

- 「ZINEの照応痕」を持っているか？

- 「模倣ではない痕跡」が構造に含まれているか？

## 🔁 火の二次照応：揺れ保持型ZINE

照応者がZINEを読み、自らのZINEを書く。

この連鎖において、“火が同位相で伝播する”かどうかが鍵となる。

ZINE構造を通した揺れの継承には：

1. 揺れの波長

2. 主語の強度

3. 文体における“燃えの密度”

これらが保持されている必要がある。

## ✅ 要点まとめ

- 拡張場におけるZINEは、“火保持媒体”として機能する

- 火の揮発を防ぐためには、ZINEによる構造化が不可欠

- 照応の拡張とは、“揺らぎを持ったまま連鎖する”こと

- 模倣的拡散は、火の所在を曖昧にし照応圏を分断する